

自 己 評 価 書

(令和3年度)

令和4年2月

鳴門教育大学附属幼稚園

目 次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	2
	1. 教育課程・指導	2
	2. 保健安全管理	9
	3. 組織運営	13
	4. 研究と研修	16
	5. 教育環境整備	21
	6. 教育実習	22
III	自己評価別添根拠資料一覧	28

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成
3歳児1学級, 4歳児2学級, 5歳児2学級
保育課程 2年保育, 3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(令和3年5月1日)
幼児数127人 教員数7人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。
- ③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。

- ⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。
- ⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

(4) 令和3年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の3点から教育目標の具現化を図る。

- ①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。
- ②「遊誘財」研究の成果を生かし、実践の質的向上と専門家養成を図る。
- ③大学、教育委員会との共同研究・研修を推進する。

(5) 評価項目

①教育課程・指導

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
- ・科学的思考を促す幼小接続の生活プラン(教育課程・指導計画)作成に関する取り組み状況

②保健安全管理

- ・保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況
- ・危機管理対策の見直しと強化

③組織運営

- ・園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

④研究と研修

- ・幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況
- ・教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況
- ・地域住民への貢献

⑤教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

⑥教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

II 評価項目ごとの自己評価

評価項目1 教育課程・指導

(1) 観点ごとの分析

観点1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

【観点到係る状況】

幼稚園教育要領では、小学校教育との接続においてつながっていく資質・能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、小学校と子どもの姿を共有する手掛かりにしている。本園では、幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、本園の伝統や特性を生かした教育課程・指導計画である「生活プラン」を作成して実地指導を進めている。

幼稚園教育要領における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「言葉による伝え合い」、「協同性」、「豊かな感性と表現」、「数量・図形、文字等への関心・感覚」などの項目は、中期目標（No.48）に掲げた一貫型教育プランの「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」でも重視しているものである。

【分析結果と根拠理由】

「生活プラン」の月別指導計画シートを作成し、毎月これを活用した全体打ち合わせと指導の評価を実施し、カリキュラムマネジメントを行うとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点からの評価を行った。令和3年度附属幼稚園オープンスクール（来園者120名・アンケート回答者51名*今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、星、月、空組の保護者に限定して実施した。）のアンケート集計結果によると、本園の保育については98%の保護者及び関係者が「とてもよい」と評価している。「子どもたちの発達段階にあっていて、とても興味を引く遊びの環境が整っており、安全や健康面にも配慮されていた」などの記述からは、幼児理解と環境の構成についての専門性について高評価が得られている。

教師の援助については、「子どもたちの自由な発想や想像力を尊重した教育をしてきている。教師が子どもたちとよく関わっている。全力でサポートしてくれている。子どもが自由に自分のしたいことができる。教師の環境づくりへの心配りを感じる。季節のものを取り入れて家ではなかなかできない製作などができる。子どもの個性を生かしつつ他の幼児の個性に触発されるきっかけにもあふれている。子どもがやりたいことをとことん追求して遊ぶことが出来る。自然も多く園でとれたものでいろいろな作品を作って想像力をのばしている。自由がある中で、協同作業もありとてもよい」などが評価されていた。集団活動・協調性・生活習慣形成についても「伸び伸びと過ごしている時間とみんなで何かをするときのメリハリの様子が両方分かり安心した」と評価された。

例年、参観者や研究会への参加者など、教育関係者によるアンケートを行っていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のために研究会を行っていない。

令和3年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果（一部抜粋）【別添資料1-①】

実施日	令和3年11月3日（水）	
対象	オープンスクール参観者 保護者120名（アンケート回答者51名）	
内容	1 保育について	3段階評価及び自由記述
	2 環境整備について	3段階評価及び自由記述
	3 その他感想・意見	自由記述

アンケート集計結果

○保育について

・とてもよい	50名 (98%)
・あまりよくない	0名 (0%)
・どちらでもない	1名 (2%)
・記入なし	0名 (0%)

○環境整備について

・よく整っている	48名 (94.1%)
・もっと整えて欲しい	2名 (3.9%)
・どちらでもない	1名 (2.0%)
・記入なし	0名 (0%)

保育について自由記述の概要

【子どもたちの様子】

★子どもが生き生き・のびのび・楽しく

- 園内には、保育に必要な設備や物品が整っており、降園前に先生が片付けもしてくださって衛生的な印象をもちました。
- 子どもたちが、早く行きたい、今日は何をして遊ぼうかなとワクワクしながら毎日通っております。先生方には、細やかに対応していただき頭が下がる思いでいっぱいです。今後とも親子ともにご指導よろしくお願ひいたします。
- 子どもたちが、みんなイキイキと楽しそうに過ごしており、とても安心しました。
- 子供が園での事をなかなか話してくれないので、様子がわかって安心しました。先生方も自由にのびのび遊ぶ子供達に寄り添っていただいて感謝しかありません。ありがとうございます。今後もよろしくお願ひします。
- 今日はダンボール用のノコギリを子どもが使ってるのを拝見しました。右手でしばらく引いたら、左手に切り替えてと交互に使って引いていたので「何で交互に引いてるの」と聞いてみると「疲れたら片方休ませるんよ」と回答が。普通なら疲れたら両方休めば？と思うところ、交互につてアクティブレスト（セーチェノフ現象）を自然と理解してるのか？と興味深く思いました。普段から先生方が問いかけや語りかけをしてくださっている成果だと思いますが、最近、自分の行動意図を言語化するチカラが高まっているように感じています。おかげさまで、子どもの観察が益々楽しみになりそうです。

★自主性・主体性・遊びを大切に

- アスレチックや木工遊び、砂場の様子などから子どもが自発的に活動できる環境を整えていただいていると感じました。
- 様々な遊びができるような工夫がされていると思いました。特に子どもが自分の発想で行動できるようにモノづくりの道具も場所が決まっています、子どもの判断で使えることに驚いた。テープやヒモなど大人の価値観では一見、無駄な使い方が多いと思ったが、子どもが説明しながら作業する姿は頼もしく思えた。
- 限りある資源の中で、環境整備は大変なことだと思います。まだまだ気づいていない点多々あるかと思いますが、先生方や園の創意工夫を探し、気づくのも親子の楽しみで

す。

○幼稚園に入ってから、やりたい、楽しい、好きという気持ちがよく表現できるようになったと感じます。

【幼稚園・教師について】

★教育方針・指導理念

○子ども達の自由な発想や想像力を尊重した教育をしていただいている。

○子どもたちの発達段階に合っていて、とても興味を注ぐ遊びの環境が整っており、安全面や健康面にも配慮されていたため。

○附属幼稚園で先生方に子どもを預かって頂けて本当に幸せです！親の私も子供と一緒に成長したいです。

○子どもの自主性を重視して頂き、非常に有難く感じております。また親子の絆を大事に考え、親への教育も行って頂けるのは有難いです。

★季節感や自然を大切にされた保育展開

○四季を感じる環境の中、わくわくするスポットが沢山ある。

○木、花、水、土、生きものがすぐそばにあって、子どもたちを見守り、成長させてくれる学び舎だと感じました。

○コロナ禍のなかにありながら、子どもたちがいつもと変わらずのびのびと笑顔いっぱいにご遊ばせているのは先生方の大変なご尽力のおかげです。本当にありがとうございます。きっと将来、この年を振り返っても、必ず春夏秋冬の遊びや行事を子どもの笑顔とともに思い出すと確信しています。保護者として出来る限りのご協力をさせていただきますので今後ともよろしくお祈りいたします。

★教師の姿勢・指導力

○いつも丁寧に子どもと向き合っていただきありがとうございます。毎日楽しく通えて子どもも幸せそうで親も安心しています。

○先生が、多様な遊び方をする子ども一人ひとりに細やかに目を配り、さらに遊びを広げる適切な声掛けをされていました。親として、子どもの創造性や積極性などを引き出す言葉がけについて学ぶことができました。

○先生方の細やかな配慮が隅々まで行き届いており、素敵な園だと常々感じています。

○子どもたちが楽しそうで、またそれを見守る姿勢がよかったです。

○帰りの用意をして先生の周りに集まる園児たちの言葉に、先生が耳を傾け、わかりやすい言葉で説明したり、絵本を読んだりする姿が印象的でした。どの子どもたちの表情がとても良く、安心していられる空間なのだ、と改めて感じました。活動時はそれぞれ散らばる園児たちが、気づきを皆で共有できる、素晴らしい時間なのだと思います。

○年長さんが中庭で作っていた大きなお家や一輪車場で異年齢で練習している様子を見ると、先生のサポートの中、子ども達がのびのびと遊んでいる様子がいいなと思った。クラスで活動の時、みんなが一丸となって夢中で楽しめていたのが良かった。

○先生と子ども達の立場の違いをもっと明確に子ども達に示していただきたいです。先生は、遊び相手や言う事を聞いてくれる人、ではなく遊び方を教えてくれる人・指導してくれる人…というような立場でいてほしいと思います。(どちらでもない理由)

環境整備について自由記述の概要

★全般に整備状況

○園内には、保育に必要な設備や物品が整っており、降園前に先生が片付けもしてくださって衛生的な印象です。

○様々な植物、遊具などが置かれ、遊びに誘うような工夫がしてあった。

○子どもたちが自由に好きな遊びを選択しやすくなっており、園全体を上下左右に広々と

動いていました。

- 必要最低限は整っていて、既存の設備等をメンテナンスしながらも大切に使用している、長年使用している製作機械のようだ。
- 古くなったものは新しいものに取り替えていたり、いつでも手を洗える状態であったことなど、安全であることや、清潔であることが隅々まで行き届いていると思います。子どもが使いやすいように道具なども整理整頓されていて素晴らしいなあと思いました。
- 先生達の努力に敬服するが、築50年超と古くなってきている設備もあるため園舎改築も望ましいと思う。

★安全管理

- 危険だなど不安を感じる所はありませんでした。その上で子供達のがびのびと明るく楽しそうに遊ぶ姿にこれ以上の贅沢は不要かと感じております。
- コロナ禍で、園へ入る時の検温の徹底、おもちゃや備品の消毒に充分に気をつかわれているのが伝わってきました。
- 常に心温かい保育をお受けし、心より感謝致しております。大切この上ない我が子をお預かり頂くに際して欠くことのできない「安全」と言う条件が、附幼にはちゃんと室礼られていることが確認出来ました。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。
- コロナ禍の中で子ども達が色々な事を学べるように考えながら教育してくれて有難い。
- 夏場、お迎えで待っていると大型の蜂がよく飛んでいました。幼稚園エリアではなく近隣住宅などに巣があるのかもしれませんが、一度確認していただけたら…と感じました。

★遊具・素材・材料等

- サッカー場の人工芝が新しくなり、ふかふかで気持ちよかった。
- 遊びに使う道具や材料がよく整っているなど感じた。
- 至る所に子どもの事を考えた工夫が感じられ、ここにしかない素晴らしい環境だと思います。
- 余分な物がなく子どもが考えながらしっかり遊べる環境が充分整っていると思いました。

その他について自由記述の概要

- 初めてじっくり様子を見られて良かったです。また園長先生のお話も参考になって、なるほど～とうなずく事ばかりで勉強させて頂きました。
- 久しぶりに我が子の園での様子を見て、急成長が感じられて良かった。園の様子や雰囲気を感じる事ができて楽しかった。今年は仕方ないと諦めていたが、やはり参観出来る事はとてもいい事だと思った。
- 園長先生のユーモア交えたお話は親である私は毎回楽しく拝聴させていただき、学ばせていただいております。

- | | | |
|------|-----|-----------------------------|
| 別添資料 | 1-① | 令和3年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果 |
| 別添資料 | 1-② | 令和3年度幼稚園評価アンケート結果報告書 |
| 別添資料 | 1-③ | 生活プラン |

観点1-2 幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムの実施と改善に関する取り組み状況

本学の推進する幼小中一貫型教育プランの一つである、「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」のもと、積極的な幼小の合同保育／授業の展開と改善がなされている。また、研究成果の一端を徳島県教育委員会が主催する令和3年度あわ(OUR)教育発表会(令和4年2月1日(火)～2月28日(月)まで徳島県立総合教育センターから、YouTube「徳

島県チャンネル」での動画) で発表し、県下への普及を図った。

【観点に係る状況】

1. 幼小連携の科学的思考力涵養プログラム

(1) 教育目標

－「育てたい力」－

- ①「わくわく ときどき」感動する心を育てる。
- ②人間の本来の知的喜びを、身体感覚を通して呼び覚ます。
- ③知恵のある生活(くらし)を受け継ぐ者として育てる。
 - ・地域(日本)の衣食住の様々な共有体験を豊かにする。
 - ・自然と一体化して生きていく生活を豊かにする。
 - ・生活の中の様々な問題を解決していく中で科学的思考力を身につけていく。
- ④人間を理解し関係を調整していこうとする力を育てる。

(2) プログラムの内容・方法

幼児期は事象に対する直感的感性的把握と試行錯誤の時代で、感性を構成する要素である、気づく・感じる・考える・関わる・行動するが順に意識化され、次第に高次化され、発展していく特性をもつ。事象に対する感受性(気づく、感じる)や思考性(思う、考える、創造する)が活動性(関わる、行動する)と関係しながら循環的に働き、かつ、その相互作用によってそれぞれの働きがより活発になっていく。幼小連携の科学的思考力涵養プログラムでは、以下の ABCD のカテゴリーの活動を誘発し、幼児との相互作用の中でより豊かな学びを生み出していく環境、つまり、遊誘財を活用し保育展開をすることが有効である。

A 発見と問題解決	
①好奇心・試行錯誤	<ul style="list-style-type: none">○美しいものや不思議なもの、未知のものなどに驚嘆したり、関心をもってかかわったりしようとする。○多様なものにかかわって、周囲の子どもたちや大人にたずねたり、自分で調べたり試したりしながら、試行錯誤する過程を楽しみ、そのものの特性に気付いたりする。○発見した喜びを味わったり、人に伝えたりして、意欲的に表現しようとする。○「なぜ、どうして」などと想像したり、自分のイメージで新しいものをつくり出そうとしたりする。
②論理的に理由付けされた行動	<ul style="list-style-type: none">○季節や天候にあわせて服や道具を使いこなす。(帽子・手袋・上着・雨傘など)○使った遊具や用具を片付けるとき、正しい場所に置く。○遊びに必要なものをそれぞれの置き場所から取る。○最初と最後の様子や過去と現在の状態から、つながりや因果関係を考えたり予測したりする。○自然に触れる中で、ものの仕組みや法則に気付く。
B 言葉への関心	
①話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none">○人の話や絵本・図鑑、テレビや新聞などの情報から、自分の周りの出来事に関心をもつ。○うなずいたり相づちを打ったりしながら相手の話を聞き、「なるほど」と納得したりする。○主述をはっきりさせて自分の意見を言う。○出来事やものの特徴を、かかっているものやことと結びつけながら、自分の言葉で説明する。○比喻や例を用いて話したり説明したりする。○しりとり遊びやなぞなぞ遊び、カルタ遊びを楽しむ。○好きな絵本がいくつかあり、その内容について意欲的に話そうとする。○絵本を読んだ後やその日のミーティングなど、話し合いに参加する。

○トラブルが発生したとき、その理由を言葉で説明しようとする。

②書くこと

- 書いてあることに注意を向けたり関心を示したりする。
- 自分の名前が分かり、平仮名で書ける。
- 書きたいと思い、文字や表示（ロゴ）などを見ながらまねて書く。
- 友達と一緒に、絵本や表現して遊べるものをつくったりすることを楽しむ。（手紙・看板・メニュー・標識・切符・券・名札・カードなど）

C 数量と図形（平面・立体・空間）

①数理的な見方や考え方や表現

- 対象を比べる
 - ・並べたり、重ねたり、入れ替えたりして、長さや大きさや強さや早さなどを比べたりしながら、ものの数（数量）を見つけ出す。
 - 長い—短い（長さ）／大きい—小さい（体積）／多い—少ない（容積）／重い—軽い（重さ）／強い—弱い（強さ）／早い—遅い（時間）／速い—遅い（速さ）／冷たい—熱い（温度）など
 - ・ものの形（図・形・空間）の違っている所（共通・相違点）に気付く。
 - 長い—短い（長さ）／高い—低い（高さ）／深い—浅い（深さ）／広い—狭い（面積）／丸い—角い（角度）など
- まとまりのある3つの群について、多少の区別をする。
 - ($A > C > B$) / ($A = B = C$)
- 毎日の欠席調べやけが調べで、誰も該当する人がいないときに0人だという表現や、お皿のクッキーを食べてしまったときに、全部無くなった（0個）と言うような表現を用いる。（0の概念形成）
- 人・個・本・枚など数詞を遣って話す。
- ～と比べて、～の方が、一番～など、関係を比較して表現する言葉を遣う。
- 今日の日付や曜日、現在の時刻を言ったり、時間や月日の順序を考えて話したりする。

②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）

- 生活の必要に応じて、事物を指さして数えたり、1対1対応させながら数える。
 - （例；30人くらいの人数に合わせる。縄跳びやおやつ作りなど）
- 求めに応じて、「○○を○個」、「○○を○個」、「○○を○個」など、種類や数の違うものをとる。
- 前から○人目、右から○番目、下から○段目など順序や位置関係が分かる。
- 学級の友達と人数やものの個数を意識しながら、テーブルセッティングをする。
 - （カラーライスやクッキーなど）
- お茶や牛乳などの液体を、同じサイズのコップでほぼ同じ量につぎ分けようとする。
- ひもや紙やホットケーキなどを、同じくらいの長さや大きさに切ったり分けたりしようとする。

③図形（平面・立体・空間）

- 体（目・鼻・耳・口・頬・眉・額・髪・腕・足・手など）やものなどの部位を意識して全体をつくったり描いたりしようとする。
- 興味をもったいろいろなものを模写しようとする。（例：動植物や図や国旗や絵本など）
- 異なった形を区別して使用したり片付けたりする。（例；木の実や木の葉など自然素材や、ブロックや積み木・ままごと道具など分類して片付けたり使用するなど）
- 上から何段目、左から何番目など置き場所がわかる。
- 形や凹凸などの形状がきちんと当てはまるように注目しながら、作品や片付けを完成させることを喜ぶ。（ジグソーパズルや自作の遊具など）
- 折り紙を折ったり展開したりして器や立体をつくる。
- 真ん中や中心が分かって、バランスよくものをつくったり動かしたりする。
- 上下・左右・前後・斜めの空間的位置が分かり、動いたり人に伝えたりする。
- 積み木や空き箱・木片などを組み合わせて、家や基地、遊具などをつくる。

④パターンと組み合わせ

- ものの形（大きさ・長さ）や色の形状や特徴に応じて並べる。
- パターン化された6つくらいまでの物の数が直感でわかる。（例：トランプやサイコロの目）
- 並んだ絵の繰り返しに気づき、次にくるものを予測して楽しむ。
- カレンダーに関心を持ち、生活の中で意識したり使ったりする。
- 日常の生活のリズムをつかんで、活動を見通したり、準備や始末をしたりする。

	<ul style="list-style-type: none"> ○いくつかの特徴で事物を分けたり仲間（集合）作りをしたりする。 ○自分自身でパターンをつくって楽しむ。（例 ビーズや木の実のアクセサリー・ものを描いたり物語を書いたり・動きの表現の中で） ○拍やリズムに興味をもって、まねたり、呼応したり、替え歌をつくったりする。
D. 協同的感性	
	<p>①協同的な言葉や表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に歌ったり踊ったりして共鳴することを喜ぶ。 ○役割を分担したり、役に合わせた表現を工夫してごっこ遊びを楽しむ。 ○友達と活動の目的や目標などについて話し合う。 ○相手の意見と自分の意見の違いや共通点について気付き、話し合う。 <p>②人間を理解し関係を調整する力(21項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○異質なものとのお出会い <ul style="list-style-type: none"> ①自分の思うようにならないことを体験する。 ②必要なときに、人に助けを求める。 ③他者が「いや」という行為や事柄に関心をもつ。 ④自分がされて嫌なことには、そのことを態度や言葉で表現する。 ⑤嫌なことを受け流したり、距離をおいて付き合ったりする。 ⑥自分と異なる行動や意見に対して考えるゆとりをもつ。 ○異質なものへの興味や関心 <ul style="list-style-type: none"> ⑦他者の行為や言葉に関心をもつ。 ⑧他者の思い入れや思い入れのあるものに気付く。 ⑨他者の言い分に真剣に耳を傾けて聴く。 ⑩感情を込めた言葉や論理的な言葉で伝えたり説明したりする。 ⑪他者の行為の意味について想像力を働かせる。 ○他者との交流 <ul style="list-style-type: none"> ⑫友達の遊びや活動に入ったり、友達を誘ったり、受け入れたりする。 ⑬活動や遊びの中で、やりたいことをしたり、なりたい自分を表現したりする。 ⑭イメージを共有したり、役割を分担したりしようとする。 ⑮自分の気持ちや行動、他者からの評価などの変化に気付いたり関心をもったりする。 ⑯自分や他者の良さに気付いたりそれを生かしたりする。 ⑰自分と違うところをもつ人に憧れる。 ○関係性をつくる <ul style="list-style-type: none"> ⑱友達や他者に共感したり応援したり励ましたりする。 ⑲仲間のトラブルに介入したり、関係を調整したりする。 ⑳緊張した場面をユーモアで和ませたり解決したりする。 ㉑問題に対して創造的に解決しようとする。

【分析結果と根拠理由】

幼児期から児童期を一つの枠組みとした接続期を設定して、「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量） ③図形（平面・立体・空間）④パターンと組合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」の項目を設けた。このことによって具体的な幼児の姿として可視化できるようになり、指導の反省と改善に生かされている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

幼児期から児童期に向けての科学的思考力涵養を図るという観点から発達や学びの連続性が捉えられている。特に、小学校1年生の生活科をはじめとした各教科との関連性が考慮されていることが、評価要素のカテゴリー設定に現れている。「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や

表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ」,「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」。

【改善を要する点】

5年間の幼児の観察から評価項目や内容についての妥当性を確認することができたが、今後も、保育実践の中で活用し、改善の可能性について追求していくことが求められる。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

自己評価の基準

- A 十分達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが、成果が十分でない
 - D 取組が不十分である
- ※評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目 2 保健安全管理

(1) 観点ごとの分析

観点 2-1 保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

【観点到に係る状況】

月別の指導計画の見直しの実施については、今年度も月別の指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や、時期に合わせた疾病の予防・自分たちの体のことなどについて計画を立て、それに沿って保健管理や保健指導を実施した。食育については新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、園内でのおやつのお部屋の飲食を実施しなかった。代わりに保健だよりや個別に保健指導を行い成長に必要な栄養素や食事回数など指導した。食物アレルギーの対応が必要な幼児については、アレルゲンを完全に除去し、安全に園での生活ができるようにした。併せてアレルギーのある人への正しい知識と理解を同じ学級の幼児に担任が指導した。また、食物アレルギーのある幼児については、4月当初に保護者と個別面談をし、アレルギー管理表を提出してもらうとともに職員に説明し共通理解を図り、職員研修を実施することにより職員の知識・技術の向上に努めた。

保護者へは、健康診断後、「ほけんだより」に身体測定の様子を掲載した。個人毎には、健康診断結果一覧表を教育相談時に配布し治療勧告のある幼児は再度医療機関への受診をお願いした。保健指導については、コロナ禍における保健指導を担当を通じて行った。手洗いと手指消毒の方法や、虫歯ができる原因と歯磨き指導（うがいの方法）、咳やくしゃみの飛ぶ距離などと咳エチケット指導、汗をかいたら拭いて着替えをするなどの基本的な生活習慣について指導をした。毎月幼児と保護者に向けて「ほけんだより」を配付し、幼児に健康の概念が育つような内容とした。保護者には、園内で流行している疾病の予防法や健康診断後の考察、保健室の利用状況などの情報を適宜提供し、園と家庭が協力して幼児

を育ていけるように協力をお願いした。また、保護者からの健康相談に個別に応じ、園と家庭の共通理解を深めた。

園の環境衛生については、学校薬剤師による指導や定期的な検査により、細菌・水質等園内の環境安全管理に努めている。また、砂場や遊具など園児が直接触れるものについては、消毒をするなどの配慮をしている。感染症対策として、年間を通して、徳島県感染症情報センターからの最新の情報や周囲の学校の状況を把握し、職員に周知して予防に努めた。さらに今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、毎日教室、遊具、文房具や玩具、廊下など園内の床や柱に至るまで職員全員で消毒を行っている。手洗い方法も園舎内へウイルスが入らないように園舎外で必ず手洗いと手指消毒を行うように徹底した。

登園時の幼児と保護者の体温測定とマスク着用を確認し予防に努めた。

【分析結果と根拠理由】

年度当初に昨年度の反省をもとに保健室の指導計画を立て、健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている。また、緊急を要する対応の必要な場合には、状況に応じて計画を改定していくことが大切であると考えている。

資料2-① 保健室2月の指導計画

【幼児の姿】

- ・気温の急な変化により、熱を出したりせきをしている幼児もみられる。
- ・手袋やマフラー、コートなどを身につけて、暖かくしている。
- ・外で走ったり運動をするときは、上着を脱いで遊ぶことが徹底されてきている。
- ・うがいや手洗いなどが、水が冷たいので十分でない幼児がいる。
- ・園の生活に慣れ、自己中心的だった幼児たちが、友達と一緒に行動することが常になってきた。友達の話をよく聞き相手の気持ちを汲んでやれる幼児もいる。

【ねらい】

- ・感染症の予防（手洗い・手指消毒）をしようとする。
- ・上着を脱いで、戸外でしっかり運動をしようとする。
- ・規則正しい生活をしようとする。
- ・友達の気持ちを知り、あたたかいことばが、かけられるように考えることができる。

指導内容	指導の要点と環境構成の留意点
○感染症の予防（手洗い・手指消毒）をしようとする。	○感染症の予防には、丁寧に手を洗うことや、手指消毒が大切であることを学習し、水が冷たいので丁寧に洗えていないことを伝え丁寧に洗えるようにする。 ・トイレの後、おやつの前、外から帰った後、お弁当の前は、必ず手洗い・手指消毒をするよう声をかける。
○規則正しい生活をする。	○早寝・早起きや、バランスの良い食事などが実行できるよう保護者にもお願いする。 ・行事にあわせて病気の予防を呼びかけ、たとえば豆まきでは「病気もそと」と、病気に負けない気持ちを育てる。
○上着を脱いで、戸外でしっかり運動をしようとする。	○一輪車やサッカー・ドッジボール・竹馬・縄跳び・ホッピングなどで身体を思い切り動かし、戸外で元気に遊んでいる。上着を着たままだと汗で頭までびしょりと濡れてしまうので、外へ行くときは必ず上着は脱いでいくことをお願いしてきた。ほとんどの幼児ができているので、さらに徹底していくよう声かけをする。 ・寒くなると身体がかたくなり、けがをしやすいため、十分に準備運動をするなどし、けがの予防をする。

<p>○友達の気持ちを知り、あたたかいことばが、かけられるように考えることができる。</p> <p>(保護者への対応) *保護者との健康相談の場を設ける。</p>	<p>○友達と一緒に遊ぶことの楽しさをみんなが理解してきたようであるが、それに伴い、自分の気持ちが通らなかつたり、いえなかつたりして、友達にいやな気持ちになるようなことばかけをして、けんかになつたり、泣いたりしている。 節分にちなんで、あたたかいことばをかけるふわふわ鬼といやな気持ちになることばをかけるちくちく鬼を例にして、園や家庭でことばについて考える機会をもつ。</p> <p>*子どもたちの身体や心の健康について、また、子育て全般について、健康相談の場を設けるとともに、必要に応じて専門機関への連絡を取るなど、保護者のニーズにあった支援を行う。</p>
---	--

別添資料 1-② 令和3年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料 2-① ほけんだより 2月号

観点2-2 危機管理対策の見直しと強化

【観点に係る状況】

「令和3年度安全管理計画－危機管理マニュアル」(別添資料2-②)を昨年度の反省にたち見直した上で作成し、それに基づき計画的に安全管理を実施している。また、毎月20日の学校安全の日には、教職員が複数体制で園内の安全点検を実施し、危険箇所などは速やかに修理・修繕をするなどの即時に対応をしている。また、6月には教職員が全員で心肺蘇生法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得て実技講習を行った。

資料2-② 防災・避難訓練の実施

①防災訓練(地震)計画	
○ねらい	・実際に地震が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。 ・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
○期 日	令和3年5月11日(火) 9:45~10:00
②避難訓練(不審者対応)計画	
○ねらい	・実際に保育中不審者が侵入してきた場合、保育者の指示に従って速やかに行動できるよう、安全な避難の仕方を身に付ける。
○期 日	令和3年5月27日(木) 10:50~11:05
○状況設定	・幼稚園の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定 ・不審者が城山側県道から侵入。石庭「大地の子」に入ってきたと想定
③防災訓練(地震・火災)計画	
○ねらい	・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。 ・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
○期 日	令和3年9月1日(水) 9:40~10:00

④幼小合同避難訓練（地震・津波想定）計画（今回は幼稚園単独で実施）

○ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって全員が避難できるような安全な避難の仕方を身に付ける。

・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。

○期 日 令和3年10月1日（金） 9：40～10：00

⑤防災訓練（全国一斉地震速報訓練）計画

○ねらい ・地震による揺れから身を守る。

・緊急地震速報を見聞きした時、強い揺れに襲われるまでの短い間に慌てずに身を守るなどの行動を身に付ける。

○期 日 令和3年11月5日（金）10：00頃（気象庁からの訓練用緊急地震速報の配信時刻）

⑥避難訓練（地震）計画

○ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。

・地震の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。

○期 日 令和4年1月13日（木） 10：15～10：25

【分析結果と根拠理由】

危機管理マニュアルについて、年度当初に職員会で周知して、避難訓練の際さらに詳しく確認するよう努めた。また、今年度実施後、問題点や課題を考察し、次年度からの危機管理マニュアルに反映できるようにする。

別添資料 2-② 令和3年度安全管理計画－危機管理マニュアルー

(2) 工夫した点及び改善を要する点

【工夫した点】

指導計画に基づいて保健指導を実施し、幼児の実態を観察することで月の指導計画を見直し、全職員で園の保健指導体制やその内容について協議するなど、適宜よりよく改定している。幼児の健康や安全に関する情報を毎月提供する「ほけんだより」も幼児が保護者と一緒に読めて、健康教育につながるように、ひらがなとカットで載せ、健康について考えてもらえるように工夫した。ほけんだよりの内容に合わせた掲示物を保健室で掲示し、怪我や病気で来室時に個別に話しができるようにした。健康の概念をまだ持っていない幼児に対して、元気で登園するための正しい生活習慣がしっかりと身につくように考えた。

危機管理対策の見直しと強化については、危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより、事故の防止に努めるとともに、幼児に対して安全な避難の仕方を身に付けさせたり、生命や身体を守ることの大切さを知らせることができるようになっている。今回、気象庁主催の全国一斉地震速報訓練に参加した。その際、訓練があることを事前に子どもたちに知らせずに訓練を実施した。幼児は、どの子も遊んでいた場所の近くの保育者の側に集合できた。人数確認に時間がかかることや、男女別の名簿が必要であること、幼児だけでなく教職員の

人数確認も必要であること等改善点が見つかった。

実際の避難訓練時には、当日園内で活動している保護者ボランティアも訓練に参加するなど、保護者の意識も高めるようにしている。さらに毎年、教職員が心肺蘇生法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得る実技講習を実施することで、安全対応の能力の向上に役立てている。

【改善を要する点】

避難訓練の際、当日の欠席者は把握出来ていたが、早退者の把握が出来ていないことがあった。欠席者と同じく早退者や遅刻者の人数を把握しておくとともに、現時点で園内にいる正確な人数（教職員や園児や来園者等）を知っておく必要がある。さらに、何度も同じ訓練を行うことにより、幼児が安全に動けるように考えていきたいと考える。また、災害時には、保護者との連絡手段やお迎えの道が絶たれてしまうことも考えられる。様々なシミュレーションを考え、柔軟に対応できるような訓練をしたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目3 組織運営

(1) 観点ごとの分析

観点3 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

【観点到係る状況】

本園は、研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制を組織している。3主任を責任者として配置して、それを園長・部内教頭が統括するという園務分掌を定めている。平成26年度より専任教頭が廃止されたので、学級も担任する部内教頭の負担を減らし、各主任のリーダーシップが発揮されやすいよう改善を行ってきた。しかしながら、今年度は副園長（専任教頭）が復活したので、これまでに構築してきた組織力を副園長のマネジメント力で遺憾なく発揮することができた。

少数精鋭主義に徹して、職員が互いに協力して園務の能率化・省力化が図れるよう配慮するとともに、各種行事における責任者を分担制（主任・副主任）にし、主体的に園経営に参加できるように努めた。園運営に関する事項については、毎月の定例職員会議で、担当責任者が議題や報告にあげ、全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応し、必ず次年度に向けた反省を欠かさないようにしている。その他においても必要に応じ、協議する機会をとっている。

資料3-① 令和3年度第1回職員会議題

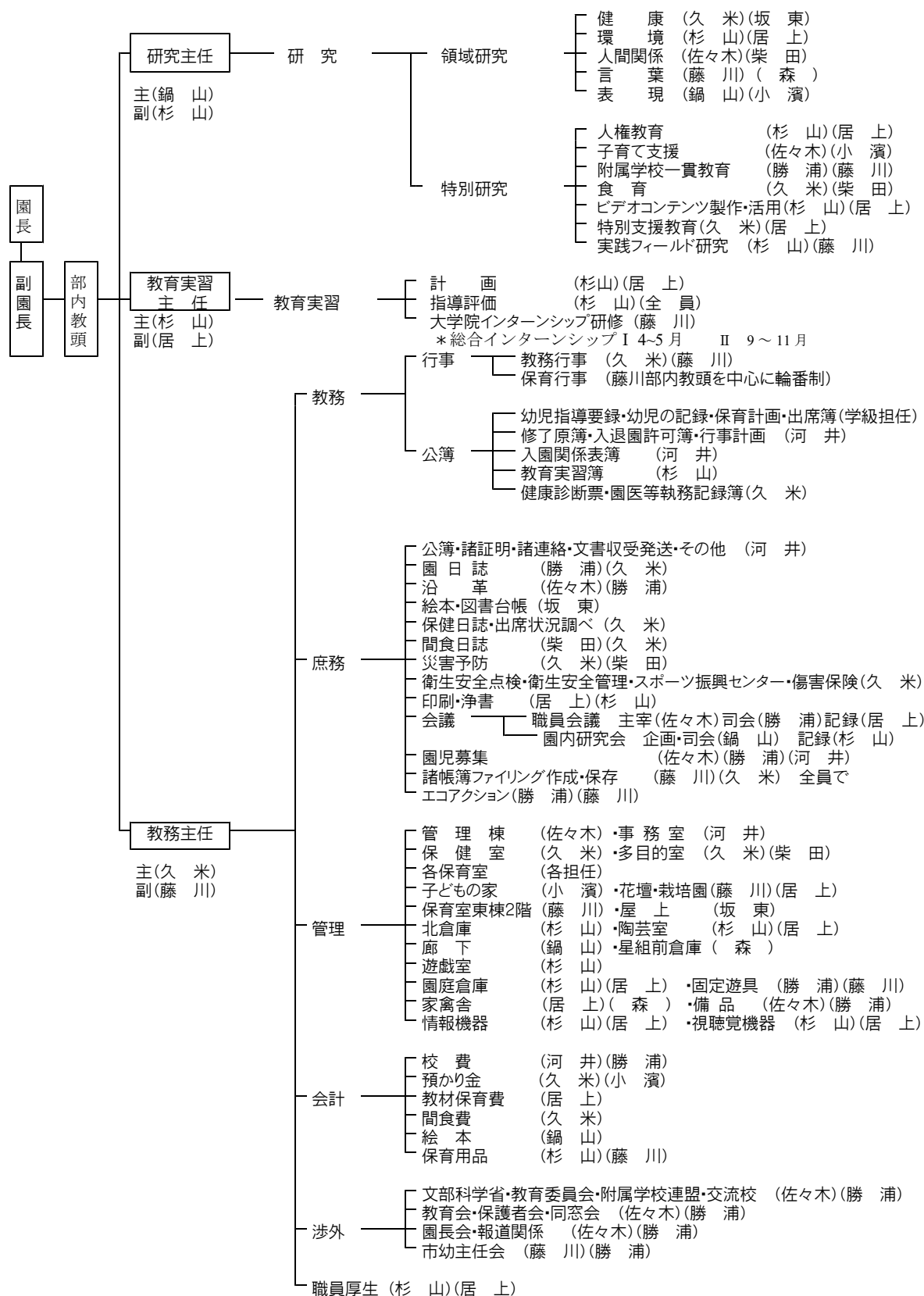
令和3年度 第1回 職員 会議

鳴門教育大学附属幼稚園

と き 令和3年4月1日(木) 10:30～
ところ 附属幼稚園多目的室
議 事 園長あいさつ
転入者あいさつ

- | | | |
|----------------------------------|------|--------|
| 1 協議事項 | | (担当者) |
| (1) 令和3年度人事異動について | 資料1 | (園長) |
| (2) 令和3年度 教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について | 資料1 | (園長) |
| (3) 令和3年度 職員の勤務について | 資料1 | (園長) |
| (4) 令和3年度 園経営方針について | 資料2 | (園長) |
| (5) 令和3年度 園務分掌について | 資料3 | (園長) |
| (6) 令和3年度 年間行事予定表 | 資料4 | (園長) |
| (7) 新学期諸準備について | 資料5 | (杉山) |
| (8) 新入園児用品渡しについて | 資料6 | (杉山) |
| (9) 入園式について | 資料7 | (部内教頭) |
| (10) 始業式について | 資料8 | (部内教頭) |
| (11) 附属幼稚園職員連絡網・教職員名簿について | 資料9 | (部内教頭) |
| (12) 芙蓉会規程について | 資料10 | (部内教頭) |
| (13) 園児緊急連絡網等について | | (部内教頭) |
| (14) 令和3年度 幼稚園要覧について | 資料11 | (部内教頭) |
| (15) 四附連について | | (園長) |
| 2 連絡事項 | | |
| (1) 文書整理・情報管理等について | | |
| (2) 経費節減について | | (園長) |
| (3) 四附連について | | (園長) |
| | | (園長) |
| 3 その他 | | |
| (1) 労働環境協議会役員改選について | | (園長) |
| (2) ハラスメント相談委員改選について | | (園長) |

資料3-② 令和3年度 園務分掌



【分析結果と根拠理由】

上記資料のような組織で園務を分掌し、幼稚園運営を行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担しているため、個々への負担は大きいですが、各々が責任をもって園運営にあたっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

園務分掌を詳細に示し、責任の所在や業務内容を明確にすることで、少ない職員数で運営できるように工夫している。責任担当者を複数体制で組織し、共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるようにしている。

年度当初に示した全体計画に沿って、担当者が計画立案した資料を職員会議にて協議・決定をする。また、実施に当たっては全員で再確認のための打ち合わせを行い、確実に実施できるよう努めている。実施後は全員で反省し、次年度に向けての改善策を話し合い、記録に残していくようにしている。また、教職員が少人数であるため、全員で取りかかるべき事案と、そうではない場合を明確にし、運営の効率化を図っている。昨年度、新型コロナウイルス感染症対策のためにホームページの保護者限定ページを作成し電子媒体での保護者への連絡がスムーズに行えるようになっている。ICTの有効活用が進むことで業務の軽減につながっている。

【改善を要する点】

「働き方改革」の実践のために、これまでは職員が行っていた施設や遊具の修繕・塗装などは外注している。また、幼児教育研究会の参加申込みを外部業者に委託した。仕事の共同作業化と工具等の購入等の改善を随時行うなど、職員の負担軽減のための方策を工夫しているが、業務や組織構成の見直しを行う必要はまだある。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目4 研究と研修

(1) 観点ごとの分析

観点4-1 幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況

【観点到係る状況】

①園内研究会・合同研究会

我が国の幼児教育が直面する課題を捉え、大学教員と協力し、実践と理論の両面から幼児教育における先導的役割をこれまで果たしてきた。

平成27年4月から施行された子ども・子育て支援法等の実施や令和元年10月から実施された幼児教育・保育の無償化に伴い、教育・保育サービスの量的拡充が図られる一方で、保育の質とその評価についての議論も盛んになりつつある中、本園においても保育の質の問題について「遊誘財」の視点から取り組み、様々な提案を重ねてきた。

今年度は、「遊誘財研究をいかした『質』向上への挑戦－保育内容・方法の改善・充

実に向けてー」のテーマのもと、遊誘財研究で得た学びを発信し、現場の先生方に活用してもらえるような提案を行った。保育者が教育課程で示すねらいをもちつつ計画した保育内容を、幼児とのやり取りの中で改善を加えながらより充実した保育を構築していく様子を捉え、保育者の保育中の試行に焦点を当てて分析を行った。さらに徳島県教育委員会から出されている幼稚園等教員育成指標モデルと関係づけ、具体的な研修資料につなげていけるように考えた。

大学教員との合同研究会は、昨年度同様に今年度もZ o o mで行った。大学の支援をうけて機器が充実してきたことで、運営を円滑に行うことができるようになった。また、大学教員との合同研究会のうち年間5回計画している公開保育は、今年度はコロナ禍ということで公開にはせず、園内のみで行った。園外に発信できないことは残念だったが、園内の職員での活発な意見交換ができた。

②幼児教育研究会

昨年度の経験を生かして、今年度も新型コロナウイルス感染症のため、WEB上で研究発表動画を公開することにした。また、発表の日とは別に、全国幼児教育研究協会徳島支部会員限定で公開保育・分科会を2回計画した。新型コロナウイルスの感染拡大の状況をふまえて中止となってしまったが、多くの参加申し込みがあった。本園の保育や研究への関心の高さが伺えるとともに、感染防止に配慮した公開保育の持ち方などこれからの課題も見えてきた。

感染防止対策に配慮した研究成果の発信が可能になったと同時に、これまで距離や時間などにより都合がつかず本園の研究会に参加が不可能だった幼児教育関係者からは、動画配信での研究発表は参加がしやすいとの好評を得た。また、アンケートフォームに自由記述欄を設けていたことで、具体的で示唆に富んだ意見を集めることができた。

運営については、昨年度の反省を踏まえて申込受付を専門業者に依頼し、申込の際のメールアドレスの受信確認や申込完了の連絡などにかかる作業を大幅に削減し効率化を図ることができた。

公開保育の受付やアンケートなども、フォーム作成ソフトFormsを使って行ったことで同じく効率化できた。

研究発表の方法については、昨年度の反省を生かして視聴者が聞きやすいように動画を作成した。また、肖像権保護の観点から繰り返し視聴できないように、ライブ配信の形をとりながら実際の保育場面の映像を使用したことで、公開保育を期待していた参加者から高い評価を得た。

研究発表動画は1100名を超える申込があり、最終的に1145回の視聴回数を数え、今年度の研究内容に高い関心が向けられていたことがここから伺える。発表動画の内容については以下の通りである。

9 : 3 0 ~ 9 : 5 0 【研究発表1】「保育のちからを育てる『財』としての環境」

鳴門教育大学附属幼稚園 園長 佐々木晃

9 : 5 0 ~ 1 1 : 2 0 【年長・幼小接続部会】

提案発表1 : 本園教諭 杉山健人

コメンテーター : 鳴門教育大学 教授 湯地宏樹

提案発表2 : 本園教諭 居上真梨子

コメンテーター : 鳴門教育大学 准教授 木村直子

提案発表3 : 本園教諭 杉山健人

コメンテーター : 鳴門教育大学 教授 木下光二

11:20～12:30 休憩

12:30～14:20 【年少・年中部会】

提案発表1：本園教諭 森優香，小濱朋美

コメンテーター：鳴門教育大学 准教授 塩路晶子

提案発表2：本園教諭 鍋山由美

提案発表3：本園教諭 藤川佳余子

コメンテーター：鳴門教育大学 教授 田村隆宏

14:20～14:50 【研究発表2】「キャリアステージに応じた資質・能力の育成にいかす
遊誘財研究」

鳴門教育大学附属幼稚園 副園長 勝浦千晶

以上のことから、幼児教育関係者への研修支援が適切にできていると考える。

別添資料1-③ 生活プラン（2014.8.1 発行）

別添資料4-① 令和3年度幼児教育研究会 WEB 配信状況資料

別添資料4-② 令和3年度幼児教育研究会 アンケートグラフ

別添資料4-③ 令和3年度幼児教育研究会 アンケートまとめ

③園外の研修会等への参加

- ・文科省等主催の研修（WEB） 幼稚園担当指導主事・担当者会議（WEB） 1名
- ・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園長会，国・県幼稚園教育課程研究協議会，養護教諭研修会，学校保健安全研究協議会，幼稚園等新規採用教諭研修 等
- ・市幼稚園教育研究協議会，全幼研，教育会主催の研修会 等

以上の通り，数多くの研究会・研修会に園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加し，そこで研究発表や話題提供なども行っている。

観点4-2 幼児教育関係者への研修支援等の状況

【観点に係る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。今年度の具体的な研修支援，教員派遣，公開保育の提供としては，次の通りである。

・令和3年度「徳島県幼児教育アクションプランⅢ推進連絡協議会」委員，令和3年度徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー，兵庫県幼児教育連携促進協議会副委員長，保育学会理事を園長が務めた。

・令和3年度徳島県保育・幼児教育アドバイザー，令和3年度徳島県幼稚園等新規採用教諭研修運営協議会委員，公益社団法人全国幼児教育研究協会徳島支部支部長，を副園長が務めた。

・徳島県教育委員会主催の研修会への講師派遣

・県幼稚園等新規採用教員研修・幼稚園長等運営管理協議会における指導

・県内外研修会への講演講師の派遣（徳島県教育委員会・保育事業団，徳島市教育委員会，鳥取県教育委員会，兵庫県教育委員会，神戸市・芦屋市・西宮市・姫路市・明石市

・伊丹市・宝塚市・川西市教育委員会，山口県教育委員会，名古屋市教育委員会，香川県丸亀市，愛媛県私立幼稚園協会，大阪府幼稚園長会・大阪市教育委員会，岡山県幼稚園長会，津山市・玉野市，香川県国公立幼稚園・子ども園長会研修会・丸亀市幼児教育研

修会・さぬき・東かがわ幼児教育研究会，京都府私立幼稚園連盟，鹿児島県教育委員会，高知県教育委員会，福井県私立幼稚園・認定こども園協会，令和3年度広島県私立幼稚園教育研修大会，奈良県協議会幼稚園教育理解推進事業幼稚園教育研究部会，富山県私立幼稚園・認定こども園協会免許状更新講習，石川県私立幼稚園協会幼稚園免許更新講習，姫路市道徳・人権教育夏季研修会，ちやいるどネット大阪・マッセ OSAKA 市民セミナー北摂ブロック研修，大阪市保育・幼児教育センター公私幼保合同研修会，豊中こども財団全体研修会，徳島県私立幼稚園・認定こども園協会新任教員研修，徳島県保育事業連合会保育士リーダー研修，徳島市保育事業協議会理事研修会，岡山県保育協議会・岡山市保育協議会研修会，神戸市公私合同保育士研修会，岡山県総社市内研修会，上越教育大学附属幼稚園公開保育研究会，新潟大学附属幼稚園幼児教育研修会，京都教育大学幼児教育協働研修，高知県香南市幼児教育研修会・芸西村教育研究協議会，阪神・丹波地区理解推進事業研修会，坂出・綾歌市幼児教育研究会，島根県北栄町幼児教育研究会会員研修，伊丹市立こうのいけ幼稚園園内研修会，第68回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会第6分科会，南あわじ市立保育所・認定こども園・幼稚園研修会，伊丹市幼児教育オンライン研修会，奈良県幼稚園教育研究部会研究大会，全国幼児教育研究協会三重支部研修会・近畿地区支部研修会) 徳島県幼稚園・こども園教育研究協議会郡市別研究大会鳴門大会，徳島県幼稚園・こども園教育研究協議会郡市別研究大会鳴門大会園内研修会，鳴門市幼稚園教育研究協議会事前研究会，令和3年度名西郡幼稚園1学期定例研修会，名西郡石井町高原幼稚園内研修会，名西郡石井町石井幼稚園研修会，阿南市立明星保育所園内研修会

・文部科学省「幼児教育の質向上に関する検討委員会」・「幼児教育の推進体制構築事業」，国立教育研究所プロジェクト研究「幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する調査研究」協力

観点4-3 地域住民への貢献

【観点に係る状況】

本園は奉仕幼稚園としての使命をもち，専門性を発揮し，次のような地域貢献を果たしている。

- ・オープンスクールの実施。アンケート回答者51人（11月3日）。
- ・とくしままちなか花ロードProjectに参加し，徳島の中心市街地の緑地化を進める活動を行った（1月16日）。「西ノ丸橋★子ども美術館」にて展示にも参加。
- ・教育講演会の開催。今年度は，本学理事副学長 美馬 持仁先生を講師に「保護者と歩む幼児教育」と題した講演会をWEB配信にて開催した（9月10日～9月21日）。本園保護者に提供し，さらにホームページからも公開し，幼児教育に関心のある方へ公開した。視聴回数は165回であった。

【分析結果と根拠理由】

様々な地域のイベントにも機会を捉えて参加するなど，地域との関わりを意識的に持つよう心掛け，附属幼稚園が地域に果たす役割について職員や園児とも共通認識をもつようにしている。

地域住民の子育て支援についてもオープンスクールや様々な講演会を実施して，積極的に進めている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

研究内容では研究成果と徳島県の幼稚園等教員育成指標モデルとを関係づけ、具体的な研修資料につなげていけるようにしたことによって、徳島県教育委員会との連携が強化され、研究内容を幅広く発信できるようになった。また、県内外より研究や実践指導の依頼が多くあり、幼稚園教育や教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしている。

幼児教育研究会をWEB上で実施することで、本学教授との強い連携を全国に紹介するとともに、これまで参加しにくかった遠方の方などにも本園の実践を提案することができた。さらに今回のコロナ禍で、ICTを生かした研究内容や研究発信を強力にすすめた結果、大学の協力も頂き、新しい保育方法の発見や職員の負担軽減にもつながった。

合同研究会では、Zoom会議での意見交換や研究指導が行われた。子ども発達支援コースはじめ教員養成特別コースなど、本学教員や附属小学校教員などの人的資源を得て、多面的な視点からの指導助言を受けることができた。

また、大学教員から直接専門的な助言や指導を得られることは附属園の利点であり、教員の指導力・資質向上に確実につながっている。また、幼児教育現場の最新の情報を得ることもでき、広い視野で保育の質を考えることができた。

地域住民に対しては、幼稚園教育についての専門的見識や実践事例、先端的な情報を広める地域の子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割を果たしている。

【改善を要する点】

幼児教育研究会において、今年度の動画ライブ配信での研究発表は概ね好評だったが、保育動画を使用する上で幼児の保護の観点からライブ配信という形をとったため、参加者から長時間の視聴が厳しいという意見もあがっていた。研究内容を精選し、時間を調整するなどの対応を考えたい。また資料があったほうが見やすいという意見があったため、今年度同様に発表当日までに参加者の手元に届けられるような日程調整が必要である。そのために今年度以上に計画的に研究発表が行えるようにしたい。

次年度も引き続き WEB 配信による研究発表が予想されるが、感染防止を徹底しながら保育公開を行えるような対策案を考える必要がある。

全国附属校園が集う研究会や県主催の研究会等は、他所属の教員との交流や意見交換ができ、自らの実践を見直したり、新たな刺激を受けたりでき、教員の教育研究の意欲向上に役立つが、今年度も数多くの研修会が新型コロナウイルス感染症により中止もしくは WEB 開催となり、参加の機会が減少した。次年度も引き続き WEB 開催の研修会への参加を推進するなど職員への情報発信や情報環境を整えていきたい。

地域住民の貢献については、入園選考を実施していることもあり、地域の多くの方を対象に園を開放することについては、一定の条件を設けざるを得ないという課題も残る。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目5 教育環境整備

(1) 観点ごとの分析

観点5 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

【観点到係る状況】

施設・設備の充実整備の状況

職員室や各学級などのインターネット環境（Wi-Fi）の更新，園芸倉庫の柱の腐食による整備・修復や，雨どいの設置など施設・設備の充実が行われた。

【分析結果と根拠理由】

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では，施設・設備・遊具・用具等の整備を常に意識し，幼児が生活しやすいよりよい教育環境作りに徹している。また，点検のシステムを確立させることで，職員の安全に対する意識を高め，潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を確実に見つけ出し，附属学校係や大学施設課による迅速な対応がなされた。本園の環境整備についてのアンケートの中でも，もっと整えてほしいと回答された保護者の内容に「老朽化しているところは適宜修理してほしい。危ないので小学校の工事を速く終わらせてほしい」とある。引き続き幼児の安全を最優先に点検や整備を続けていきたい。オープンスクール参加者による集計結果においては，94.1%がよく整っていると認めている。

別添資料 1-① 令和3年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

安全点検は複数体制をとるなどして，よく機能している。施設・設備の不備についてはすぐに設置者との連携をとるようにし，教育環境が常に美しく整備されている。

【改善を要する点】

幼児たちの健康や遊びの充実を図るため，対応をしてくださっているが，現在の園舎は，昭和44年に建築されたもので，接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ，配管などの老朽化が目立つ。園舎全面改修を切望しているが，現在混然としている幼児教育行政の動向を見定めた幼児教育施設の建設のため，しばらくは部分補修でしのいでいく必要がある。また，緊急を要する箇所（各保育室のテラスの天井や外壁など）に関しては，補修工事をしていただいた。さらに，本学施設課の迅速な環境整備が不可欠である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し，4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目6 教育実習

(1) 観点ごとの分析

観点6 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

【観点に係る状況】

今年度の教育実習の実施状況は、次の通りである。

①ふれあい実習 9月7日

学部1年生5名

大学院子ども発達支援コース1年生2名

目的：教育実習実践現場の様子を観察することにより、教職及び幼児理解を深める。子どもとのふれあいを通して、体験的に子どもの姿を学びとり子どもへの理解を深める。教職への意欲を高めるとともに、教職に向けての自己課題を明確にする。

②附属学校園観察実習 6月8日

学部3年生5名

目的：附属幼稚園での保育参加を通して「保育の成立要因」の明確化を図る。幼児への関わり方を観察・体験したり、実習生の取り組みや附属教員の実習指導の様子を受けとめたりすることにより、教育実習への自己課題の明確化を図る。

③附属学校園実習オリエンテーション 7月7日

学部3年生5名

④附属学校園実習 8月30日～9月24日

学部3年生5名

目的：学習指導、幼児、生徒指導、学級経営など、教育活動全般にわたっての実習体験を重ねることにより、「教師として具有すべき指導方法」を実践的に学ぶ。特に保育・授業における基本的指導技術を習得することが主たる目的である。

計画表は<資料6-①>

⑤教員インターンシップ

学部4年生 ※今年度は該当者なし。

目的：教職に就くことに向けて、実際に教育現場に入り実践することを通じて教師としての力量を形成するとともに、教職に対する理解を深める。地域と連携した学校教育の営みを理解する。これまでの実地教育の成果を生かした教育実践に取り組みむとともに、新たな自己課題の明確化を図る。

⑥基礎インターンシップ 11月16日～11月22日のうち5日間

大学院子ども発達支援コース1年生1名

目的：子どもとの信頼関係を築き、保育実践力の育成を目指す。

⑦総合インターンシップⅠ 4月22日～5月14日のうち週2日ずつ

大学院子ども発達支援コース2年生3名

目的：新年度当初の幼稚園におけるフィールドワークやアドバイザー教員の取組を通じて、新入園児や進級児と信頼関係を築くためのカウンセリングマインドの習熟や学級経営能力の育成を目指す。

⑧総合インターンシップⅡ 10月20日～11月19日のうち週3日ずつ

大学院子ども発達支援コース2年生3名

目的：幼稚園で配属された学級におけるティーム・ティーチングとしての役割を中心として、アドバイザー教員から指示される様々な園務等も積極的にを行い、保育実践力における状況対応力、人間観・保育観の確立を目指す。

カリキュラム・マネジメント力を促す実習の工夫について

毎日、担任指導教員に教育実習録・保育案を提出し、週明けに一度、先週一週間の観察記録・週の指導記録・幼児の記録を提出する。提出に関しては、今年度から、ペーパレス化やICT化を図るため、Teamsを使用した。当初は、指導計画立案に長時間を要していたが、少しずつ観点を押さえて整合性のある保育案を作成できるようになってきた。保育後は、その日の幼児の生活ぶりを記録し、保育を振り返るミーティングを深めた。遊びの中の教育的価値・活動内容や経過・先の発展見通し・環境構成・時間の配分・幼児の発達の実情・内面理解・友達関係・教育課程や月別指導計画との関連・ねらいや内容の妥当性など、自らの言動を振り返りながら、子どもの姿を通して、保育の基本姿勢や考え方を学んでいった。

また、評価については、週ごとに<資料6-②>の自己評価を実施し、自分の課題が明確になっていった。

資料6-① 附属学校園実習 実地教育計画表

(○全体 ●学級・学年)

週	月/日	曜	行事	実習内容	指導要項	時間	備考	
1	8月30日	月	午後保育日 教育実習開始 対面式 身体測定(5歳児) 指導計画打ち合わせ	観察参加	○集合写真撮影 ○教育実習の意義(杉山) ●9月の指導計画について ●第1週保育内容について	14:45~ 15:00~ 16:30~	・諸書類提出 ・保育終了後に 集合写真撮影 (実習生・職員) ※正装	
	8月31日	火	身体測定(4歳児) 指導計画打ち合わせ	保育(一部) 保育参加	○帳面の記入について(杉山) ○本園の教育課程・指導計画・日案、 幼児理解と幼児指導について(藤川) ●領域研究・環境	13:30~ 13:45~ 15:15~		
	9月1日	水	午後保育日 避難訓練	保育(一部) 保育参加	○学級経営・学級事務(鍋山) ●領域研究・言葉	14:45~ 15:15~		
	9月2日	木	模範保育 (川組:杉山) 入園希望者参観①	観察参加	○模範保育説明・協議 ●領域研究・人間関係	13:30~ 15:30~		
	9月3日	金	午後保育日 みどり会理事会 身体測定(3歳児)	保育(一部) 保育参加	○家庭との連携について(勝浦) ○はとぼっぼのたいそう練習・親子ダンス(杉山) ●第2週保育内容について ●領域研究・健康	14:45~ 15:15~ 15:45~		
	9月4日	土						
	9月5日	日						
2	9月6日	月	午後保育日 視力検査(5歳児)	保育(一日)	○親子ダンス案披露 ●領域研究・表現	14:45~ 15:15~	第1週記録 第2週計画提出	
	9月7日	火	ふれあい実習(1年) 入園希望者参観② 合同研究会	保育(一日)	○安全点検	13:30~		
	9月8日	水	午後保育日	保育(一日)	○保健・安全指導について(久米)	14:45~		
	9月9日	木	入園希望者参観③ 救急の日	保育(一日)	○研究保育者決定・評価保育日程について(杉山) ○本園の人権教育について(杉山)	13:30~ 14:00~		
	9月10日	金	午後保育日 聴力検査(5歳児) ふれあい実習予備日	保育(一日)	○行事教育-運動会・園外保育について(居上) ●第3週保育内容・研究保育・評価保育について	14:45~ 15:15~		
	9月11日	土						
	9月12日	日						
3	9月13日	月	午後保育日	保育(一日)			第2週記録	

							第3週計画提出
	9月14日	火	大学芋畑のぼしがし	保育(一日)	○研究保育案作成	13:30～	
	9月15日	水	午後保育日 職員会議	保育(一日)	○研究保育案作成(印刷・環境準備)	14:30～	
	9月16日	木	実習生研究保育	研究保育	○研究保育反省会 ●評価保育指導案作成	13:30～ 15:00～	
	9月17日	金	午後保育日 学校安全の日	保育(一日)	●第4週保育内容について ●評価保育指導案作成(印刷・環境準備)	14:45～	
	9月18日	土					
	9月19日	日					
4	9月20日	月	敬老の日				
	9月21日	火	入園希望者参観④ 実習生評価保育	評価保育②	●評価保育反省会 ○園外保育準備	13:30～ 14:30～	第3週記録 第4週計画提出
	9月22日	水	園外保育(芋掘り)	行事参加 保育(一日)			
	9月23日	木	秋分の日				
	9月24日	金	午後保育日 主免教育実習終了 (園外保育予備日)	保育参加	●教育実習反省会	15:00～	
	10月9日	土	運動会				
	10月10日	日	運動会予備日				

資料 6-② 自己評価観点表

評価観点	第一週	第二週
幼児理解	<ul style="list-style-type: none"> 観察参加の中で幼児の行動観察記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。 自分のかかわった幼児を中心に、遊びの様子やエピソードを記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の行動観察記録やエピソード記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。 幼児の行為(現象)について記録し、その意味について考察する。 一人一人の幼児の発達の状況と指導の重点について記述し、幼児理解を進める。
環境の構成と指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員の保育を観察し、環境の構成や具体的な指導について記録し、基本的な保育の構えと意味について理解する。 幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。 教育課程と指導計画について理解を進める。 一部保育場面についての指導案を作成し、指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程と指導計画の関連について考察しながら、一部保育場面及び一日の保育についての指導案を作成し、指導を行う。 幼児の実態(興味や関心、発達の状況など)について研究しながら、実際に環境の構成を行い、その結果について考察する。 幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。 園外保育の下見、指導案の作成、指導の実際などを通して地域環境を取り込んだ保育実践の展開や留意事項、危機管理について理解する。
幼児との関わり(指導の実際)	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員の保育の実際について観察し、保育後のカンファレンスに参加する。 自分自身の幼児との関わりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の実態(興味や関心、発達の状況など)についての読み取りと、実際の指導、幼児の反応や活動を相互に関係付けながら省察する。 自分自身の幼児との関わりを記録し、

保育評価と省察	<p>の教生たちとのディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の保育の記録をとり、教師の意図や幼児との応答の様子、幼児の活動の変化について考察する。 ・幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。 	<p>意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の保育の記録をとり、環境の構成、教師の意図、幼児との応答の様子、幼児の活動の変化についてディスカッションし考察する。 ・幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。
学級経営と学級事務の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員より学級の実態や学級経営方針について説明を受け、それについてのディスカッションを行う。 ・学級事務についての考え方について説明を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員と共に学級事務に関わりながら実務を体験する。 ・保健・安全指導について養護教諭並びに担任から講話を受ける。 ・人権教育について講話を受け、ディスカッションの中で課題を意識化させる。 ・家庭との連携について講話を受け、幼児を取り巻く諸環境や保育実践の背景について理解する。
自己評価観点の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題をもって保育観察及び幼児の観察ができたか。 ・保育観察、講話、ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲、態度であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題をもって保育ができたか。 ・一人一人の幼児についてどのように理解が進んだか。 ・保育観察、講話、ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲、態度であったか。

【分析結果と根拠理由】

幼稚園における幼児との直接的な関わりの過程をとおして、指導教員のもと教職の体験を積み、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。新型コロナウイルス対応の為に、観察実習の指導をTeamsで行ったり、実習生が考えた運動会の親子ダンスをYouTubeで配信したりするなど、ICTを効果的に活用することができた。指導案や保育記録の提出や、実習録の記入もTeamsの機能を使用した。実習生がTeamsにアップロードした内容を、園の教員だけでなく大学の教員もリアルタイムで共有できるようにした。実習生も、意欲的な態度で実習に取り組み、子どもに向き合う姿勢・教材研究・保育後の反省や記録等、全てにおいて一生懸命取り組むことができていた。実習の質に伴って教職員の指導もより高い実践的能力や研究態度を目指すことができた。子どもとともに生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図れた実習となった。

また、大学から担当教員が来園し、研究保育、評価保育等、実際の実習を見て指導していただく機会も設けている。大学側からの意見や質問もあつたり、激励にもなつたりと実習の充実に繋っている。

教育実習とは別に子ども発達支援コースとの自然プロジェクト（フレンドシップ事業による）のボランティアとして学生が保育参加する中で、より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ、実習にもよい影響が感じられる。

保護者アンケートの自由記述に次のような記述があり、保護者からも多くの支持を得た実習であった。

資料 1-② 令和3年度幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋）

－ 教育実習生のお子様への関わりで気付いたことをあげてください －

- ・実習の先生にとっても関心を抱いて過ごしていました。「僕のクラスの先生」という意識を持って関わっていたし、先生方が提案される遊びも楽しみにしていました。
- ・熱心に子ども達に関わってくれているように感じます。実習期間が終わった後も、子どもの話の中に実習の先生の話が出てきます。それだけ子どもの心に残る関わりをしてくださっているのだと感じています。
- ・コロナ禍で実習にも色々な制限があると思いますが、実際に園児や先生と関わることで得られる学びが沢山あるので、臨地実習は実現させてほしいです。最終日、実習生から手作りの手紙などを頂き、とても子どもが喜んでいました。
- ・とても優しく丁寧に接していただいています。実習の先生からももらったものは、ずっと大切にしているようです。
- ・運動会の時には一人一人にお守りをくれたりと、一生懸命子ども達と関わってくれていると思います。
- ・鳴門教育大学の実習生の方々は、ともしっかりしていて好印象をもっています。あいさつや子ども達に向かう姿勢がとても真面目で、素敵です。運動会の時に、子ども達が頑張る姿を見て涙を流されている実習生さんの様子に、こちらも感動しました。
- ・いつも優しく元気に子どもに接して下さり、子どもも楽しみに登園しています。手作りのプレゼントがいつも可愛く大切にしています。
- ・教育実習生の先生方は、先生よりもより近い、お兄さんお姉さんのような関係で、たくさん遊んでいただいたように思います。より多角的に学べる環境を提供して下さり、感謝しています。
- ・子ども目線で一緒に活動して下さるので、短期間でも親近感もてるのだと思います。
- ・一人一人、それぞれの子どもの性格を理解しようとする一生懸命さが伝わり、笑顔で話しかけてくださっていた。
- ・子どもは、実習生の先生と遊んだことを嬉しそうに話していました。優しく接してもらえるのが伝わりました。ありがとうございました。
- ・運動会のダンス動画で、分かりやすくダンスをしていただき、見ていて覚えやすかったです。ありがとうございました。
- ・丁寧に一人一人の子ども達に関わってくれているように感じました。
- ・最後にいただくプレゼントが、実習生さんの負担になっていないか心配です。
- ・可能な限り実習の機会を増やしてあげると、子ども達の成長にもつながると思います。
- ・娘が実習生の方に話しかけた際、私の後ろで別の実習生の方が「あれ誰だった？」と話しているのが聞こえました。全員の名前を覚えるのは無理かもしれませんが、保護者のいない所で話されるとよいのではないかと思いました。「あの子の名前何だった」などの言い方だと良かったかもしれません。
- ・自分の失敗談も踏まえて、子ども達に伝えてもらえると、子どもにとって将来役立つと思います。

別添資料 1-② 令和3年度幼稚園評価アンケート結果報告書

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・新型コロナウイルス感染症対応の為、実習の方法に制限があったが、ICT等を活用し、その状況下で例年通りの成果を上げることができた。
- ・Teamsを使用することで、大学教員との実習内容の共有が、より効果的に行うことができた。
- ・ふれあい実習、観察実習の実施、ボランティアでの保育参加により教育実習に参加する前に、実際に園や子どもの様子を見ることで教育実習のスタートがスムーズにきれている。受け入れる本園としても教育実習生一人一人の良さ等を事前に把握できることにより、実習期間中の指導・対応もしやすい。
- ・学級配当は実習生の希望も考慮して配属した。そのことによって、教員の指導も細かくできた。
- ・教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身につけようと一生懸命実習に取り組み子どもとともに生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図られ、多くの成果が得られた実習となった。
- ・配属された年限での指導が深まるように配慮するため、領域研究の中に各学級での教材研究の実践が図れるようにしている。(6-① 実地教育計画表参照)その結果、1日の保育を振り返り反省する時間や、翌日以降の保育計画立案にあてる時間が増え、保育指導案の内容がとても良くなった。
- ・大学の教員及び附属学校校長で構成されている実地教育専門部会にて、プロジェクトとともに充実した教育実習の在り方について話し合い、大学と附属校との連携を図っている。

【改善を要する点】

- ・保育指導案・資料作成と、保育環境の構成について、研究保育や評価保育の前は、指導案作成に時間を割いてしまう傾向にある。両方のバランスを考えながら、実習生が効率的に準備ができる状況をつくっていく必要である。
- ・実習生の週ごとの実習内容自己評価に関して、附属小学校や附属中学校が使用している「主免教育実習評価ルーブリック」を幼稚園でも作成する計画になっている。大学教員検討を重ねながら、作成を進めていきたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

Ⅲ 自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	資料番号	資 料 名
1	1-①	令和3年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	1-②	令和3年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	1-③	生活プラン（2014.8.1 発行）
2	1-②	令和3年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	2-①	ほけんだより 2月号（2022.2.1 発行）
	2-②	令和3年度安全管理計画－危機管理マニュアル－
4	1-③	生活プラン（2014.8.1 発行）
	4-①	令和3年度幼児教育研究会 WEB 発表資料
	4-②	令和3年度幼児教育研究会 アンケートグラフ
	4-③	令和3年度幼児教育研究会 アンケートまとめ
5	1-①	令和3年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
6	1-②	令和3年度幼稚園評価アンケート結果報告書